

Denka

Possibility
of
chemistry

2021年度 第3四半期 (2022年3月期) 決算説明会資料

証券コード：4061

デンカ株式会社

2022年2月7日

1 2021年度 第3四半期 決算概要

① 連結サマリー	(前年比)	03
② 増減要因	(")	04
③ 営業利益 増減要因グラフ	(")	05
④ セグメント別内訳	(")	06
⑤ セグメント別増減要因	(")	07-10

2 2021年度 業績予想

① 連結サマリー	(11月予想比・前年比)	12
② 業績予想修正の主な要因		13
② 増減要因	(11月予想比)	14
③ 営業利益 増減要因グラフ	(")	15
④ セグメント別内訳	(")	16
⑤ セグメント別増減要因	(")	17-20
⑥ 主要指標		21
⑦ 株主還元		22
⑧ Denka Value-Up 2022年度数値目標		23
⑨ (参考) セグメント別内訳	(前年比)	24
⑩ (参考) 四半期推移 (セグメント別)		25

3 トピック

研究体制の再編		26
---------	--	----

2021年度 第3四半期 決算概要

単位：億円	2020年度 第3四半期 (4-12月) 実績	2021年度 第3四半期 (4-12月) 実績	(前年比)
売上高	2,620	2,840	+ 220
営業利益	280	322	+ 42
営業利益率	10.7%	11.3%	+ 0.6%
経常利益	273	301	+ 28 (特別損失) 製品自主回収関連費用△10 を計上※
純利益	189	229	+ 40

※新型コロナウイルス迅速診断キットの一部ロットの自主回収に係る費用（10億円）を特別損失に引き当て計上

Denka Value-Upの施策により、3Q累計の過去最高益を更新

前年比 (億円)

売上高

2,840億円

+ 220

- | | | |
|--------|--|-------|
| 1. 数量差 | : xEV・半導体関連製品の需要拡大
新型コロナウイルス抗原迅速診断キット(政府への供給含む)、炎症マーカーなど検査試薬がプラスも、インフルエンザワクチンは生産性悪化によりマイナス
新型コロナウイルス影響からの需要回復 (クロロプレングム、他) | + 175 |
| 2. 売価差 | : 原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等 | + 267 |
| 3. その他 | : 収益認識に関する会計基準変更 (グループ商社売上高変更など) | △ 223 |

前年比 (億円)

営業利益

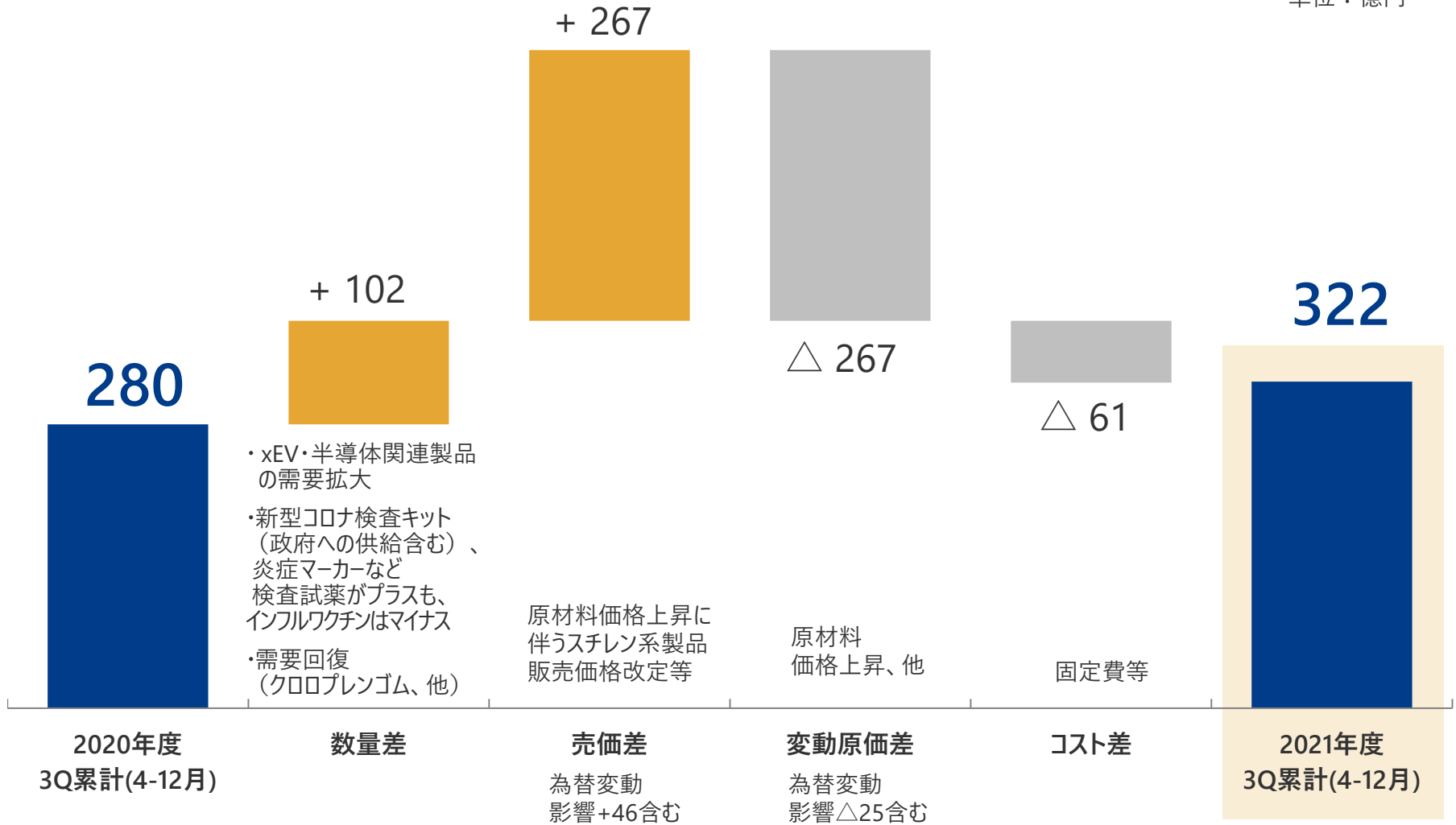
322億円

+ 42

- | | | |
|----------|--|-------|
| 1. 数量差 | : xEV・半導体関連製品の需要拡大
新型コロナウイルス抗原迅速診断キット(政府への供給含む)、炎症マーカーなど検査試薬がプラスも、インフルエンザワクチンは生産性悪化によりマイナス
新型コロナウイルス影響からの需要回復 (クロロプレングム、他) | + 102 |
| 2. 売価差 | : 原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等 (為替変動影響+46含む) | + 267 |
| 3. 変動原価差 | : 原材料価格上昇、他 (為替変動影響△25含む) | △ 267 |
| 4. コスト差 | : 固定費等 | △ 61 |

原材料価格上昇も機動的な価格改定によりスプレッド※を維持
需要の回復・拡大・伸長による数量差のプラスにより増益

単位：億円



原材料価格上昇も機動的な価格改定によりスプレッドを維持
 需要の回復・拡大・伸長による数量差のプラスにより増益

売上高	単位：億円		増減	売価差	数量差	その他※
	2020年度 第3四半期 (4-12月)	2021年度 第3四半期 (4-12月)				
電子・先端プロダクツ	566	662	+ 95	+ 25	+ 94	△ 23
ライフイノベーション	366	362	△ 5	△ 6	+ 2	-
エラストマー・インフラソリューション	666	775	+ 109	+ 29	+ 95	△ 14
ポリマーソリューション	786	927	+ 141	+ 220	△ 75	△ 4
その他 / 消去差	235	114	△ 121	-	+ 61	△ 181
合計	2,620	2,840	+ 220	+ 267	+ 175	△ 223

※収益認識に関する会計基準変更

営業利益	単位：億円		増減	売価差	数量差	コスト差等
	2020年度 第3四半期 (4-12月)	2021年度 第3四半期 (4-12月)				
電子・先端プロダクツ	102	138	+ 36	+ 25	+ 53	△ 42
ライフイノベーション	138	119	△ 19	△ 6	△ 3	△ 10
エラストマー・インフラソリューション	△21	△12	+ 9	+ 29	+ 43	△ 62
ポリマーソリューション	54	63	+ 9	+ 220	+ 1	△ 213
その他 / 消去差	7	13	+ 7	-	+ 7	△ 0
合計	280	322	+ 42	+ 267	+ 102	△ 327

電子・先端プロダクツを筆頭に3部門が増益に貢献

単位：億円			2020年度 第3四半期 (4-12月)	2021年度 第3四半期 (4-12月)	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	566	662	+ 95	+ 25	+ 94	△ 23 [※]
営	業	利 益	102	138	+ 36	+ 25	+ 53	△ 42

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

- 球状アルミナ
 - ・ xEV関連、5G通信関連の需要が伸長
 - ・ シンガポールでの新設備一部稼働効果（2022年4月から本格稼働）
- 溶融シリカ
高機能フィルム
 - ・ 半導体関連製品は旺盛な需要を背景に、出荷が前年を上回る
- アセチレンブラック
 - ・ xEV関連は、出荷が前年を上回るも、10-12月に半導体不足による自動車減産影響を受ける
 - ・ 洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要は堅調に推移
- セラミックス基板
 - ・ xEV関連は、10-12月に半導体不足による自動車減産影響を受けるも、出荷が前年を上回る
 - ・ 電鉄向けは、新型コロナウイルスの影響からの需要回復遅れ
- その他
 - ・ 原材料価格上昇（→11月から溶融シリカを値上げなど）
 - ・ 更なるスペシャリティー化の進展のための費用（増産体制構築や販売体制強化による費用増加など）

xEV、5G通信、半導体関連製品のメガトレンドを捉え増益

単位：億円			2020年度 第3四半期 (4-12月)	2021年度 第3四半期 (4-12月)	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	366	362	△ 5	△ 6	+ 2	-
営	業	利 益	138	119	△ 19	△ 6	△ 3	△ 10

製品別販売動向・コスト

- 新型コロナウイルス抗原迅速診断キット
- 7-9月に新型コロナウイルス感染症対策の一環として迅速な抗原検査体制の充実を図る厚生労働省の配布事業に供給した（高齢者施設、職場、学校などでの活用、他）
 - 10-12月に第5波が収束し検査需要が急減
 - 11月発表の自主回収(22万キット)の交換出荷実施
 - 一方、販売価格は前年より下落（12月31日に保険点数引き下げ）
 - 海外では、11月から米国に出荷開始
- その他検査試薬（炎症マーカー等）
- 中国向けの需要回復に加えて、欧米での検査需要増加
- インフルエンザワクチン
- 昨年との製造株の違いによる収率悪化、ワクチン生産用資材の不足などにより、生産・出荷数量が昨年を下回る

**新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの利益貢献は昨年度並みも、
インフルエンザワクチンの出荷数量が昨年を下回り減益**

単位：億円			2020年度 第3四半期 (4-12月)	2021年度 第3四半期 (4-12月)	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	666	775	+ 109	+ 29	+ 95	△ 14 [※]
営	業	利 益	△21	△12	+ 9	+ 29	+ 43	△ 62

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

- クロロプレンゴム
- 産業用途、接着材用途、自動車用途などの需要が堅調に回復
 - 原材料価格上昇（ブタジエン・塩素・コークス）に伴い、8月の値上げに続き、2月に追加値上げ
 - 米国DPEでは2月の凍害に続き、8月末のハリケーン「アイダ」により上流サプライチェーンの影響で設備が停止、稼働を再開するも、11月予想時よりも立ち上げが遅れた
- 特殊混和材
- 民間建設工事の落ち込みなどにより、出荷数量が前年を下回る
- セメント
- 民需低調の継続に加え、災害復旧需要などの官需も昨年を下回る、石炭をはじめとする原燃料価格上昇

米国DPEでのハリケーン影響と原材料価格高騰により営業赤字継続

単位：億円		2020年度 第3四半期 (4-12月)	2021年度 第3四半期 (4-12月)	増減	売価差	数量差	コスト差等
売上高		786	927	+ 141	+ 220	△ 75	△ 4 [※]
営業利益		54	63	+ 9	+ 220	+ 1	△213

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

- MS樹脂
 - TVやモニターなどの導光板用途や、化粧品容器などその他の用途において、需要が堅調に推移（PS樹脂は、MS樹脂製造設備への転用・改造工事実施により、出荷数量が前年を下回る）
- AS・ABS・透明樹脂など
 - 新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復により、出荷数量が前年を上回る
- 食包シート・容器
 - 概ね前年並みとなる
- Toyokalon
 - 新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復により、出荷数量が前年を上回る
- スプレッド
 - 原材料価格上昇（エチレン、ベンゼン、他）に対応した価格転嫁によりスプレッドを改善

原材料価格上昇もスプレッドが改善したことにより増益

2021年度 業績予想

単位：億円	2021年度 11月予想	2021年度 今回予想	(11月予想比)	2020年度 実績	(前年比)
売上高	3,950	3,850	△ 100	3,544	+ 306
営業利益	440	400	△ 40	347	+ 53
営業利益率	11.1%	10.4%	△ 0.7%	9.8%	+ 0.6%
経常利益	400	360	△ 40	321	+ 39
純利益	290	260	△ 30	228	+ 32

11月予想からは減益も、各利益とも過去最高益を更新

2021年度 通期営業利益予想 400億円 (11月予想比△40億円)

① エラストマー・インフラソリューション△25億円

【数量差△19億円】

⇒ハリケーン「アイダ」により上流サプライチェーンの影響で8月から稼働が止まっていた米国DPEの立ち上げが11月予想時点よりも遅れ、機会損失が発生

② ライフイノベーション△10億円

【数量差+22億円】

⇒新型コロナ第5波が収束した10-12月の検査需要が急減(自主回収の交換出荷を11月以降実施) 1月以降、第6波による検査需要が急速に拡大

【売価差△37億円】

⇒新型コロナの抗原検査の保険点数が昨年12月31日より引き下げられた。通常4月1日に改定されるが、政府方針による臨時的な前倒し改定であったため、11月予想時点には織り込めず。
(保険点数：抗原検査キット600点→300点、コンボキット600点→420点)

③ ポリマーソリューション△10億円

【数量差△7億円】

⇒MS樹脂、透明樹脂の需要が中国市況悪化で11月予想を下回るほか、AS・ABSでは半導体不足による自動車減産の影響が大きくなる見通し

売上高

3,850億円

11月予想比 (億円)

△100

- | | | |
|--------|--------------------------------------|------|
| 1. 数量差 | ：プラス要因 (新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの需要増) | |
| | マイナス要因 (DPE減産に伴う機会損失、機能樹脂の需要減) | △ 65 |
| 2. 売価差 | ：プラス要因 (クロロprenゴム、ポバールなどの追加値上げ) | △ 35 |
| | マイナス要因 (新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの保険点数引き下げ) | |

11月予想比 (億円)

△40

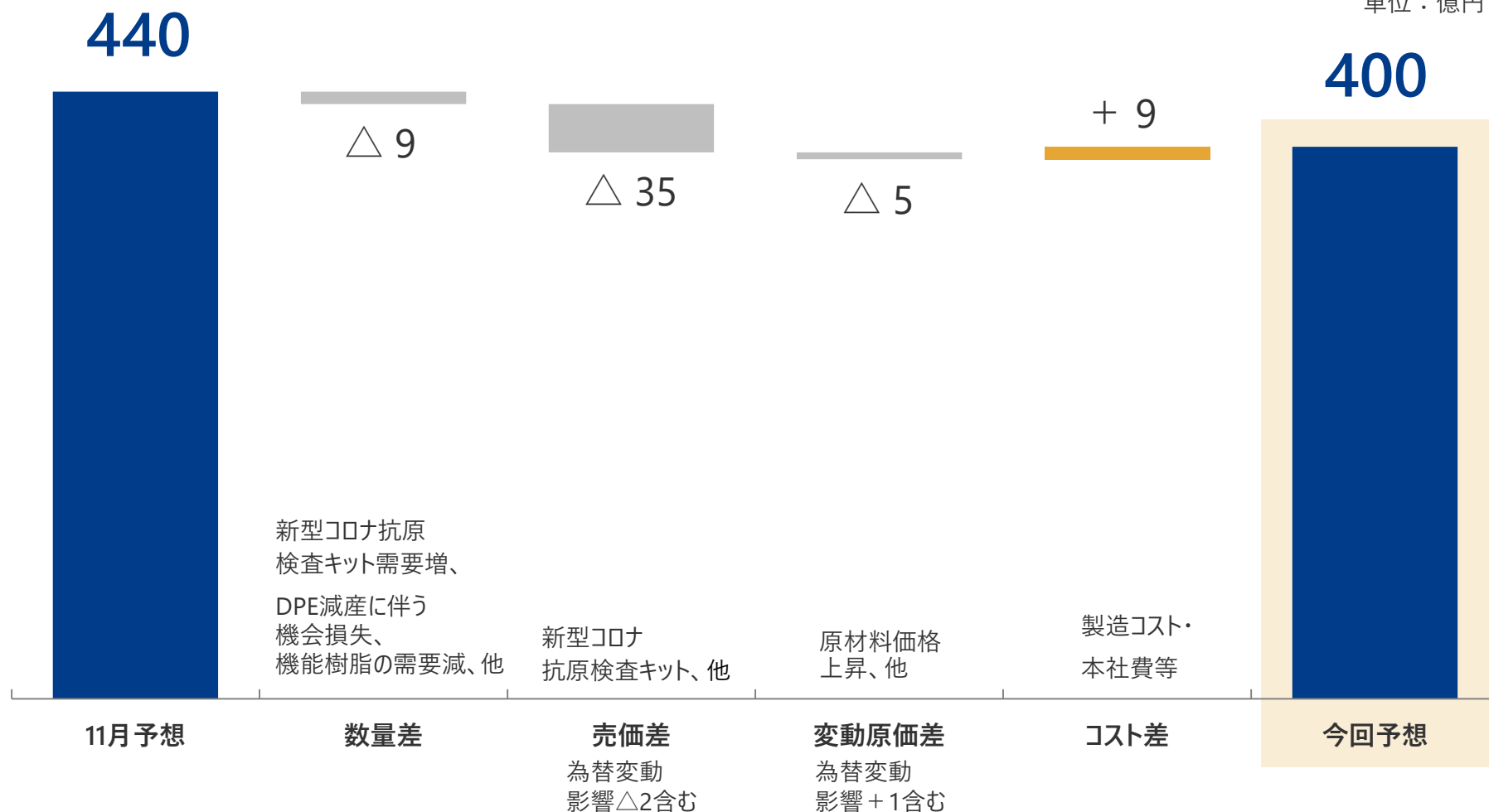
営業利益

400億円

- | | | |
|----------|--------------------------------------|------|
| 1. 数量差 | ：プラス要因 (新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの需要増) | |
| | マイナス要因 (DPE減産に伴う機会損失、機能樹脂の需要減) | △ 9 |
| 2. 売価差 | ：プラス要因 (クロロprenゴム、ポバールなどの追加値上げ) | |
| | マイナス要因 (新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの保険点数引き下げ) | △ 35 |
| | (為替変動影響 △2含む) | |
| 3. 変動原価差 | ：原材料価格上昇、他 (為替変動影響+1含む) | △ 5 |
| 4. コスト要因 | ：製造コスト、本社費等 | + 9 |

売価差が大幅なマイナス

単位：億円



売価差が大幅なマイナス

売上高 単位：億円	2021年度 11月予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差
電子・先端プロダクツ	900	900	± 0	+ 1	△ 1
ライフイノベーション	500	450	△ 50	△ 37	△ 13
エラストマー・インフラソリューション	1,100	1,100	± 0	+ 7	△ 7
ポリマーソリューション	1,300	1,250	△ 50	△ 6	△ 44
その他 / 消去差	150	150	± 0	-	± 0
合計	3,950	3,850	△ 100	△ 35	△ 65

営業利益 単位：億円	2021年度 11月予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	185	185	± 0	+ 1	△ 9	+ 8
ライフイノベーション	155	145	△ 10	△ 37	+ 22	+ 5
エラストマー・インフラソリューション	△10	△35	△ 25	+ 7	△ 19	△ 13
ポリマーソリューション	95	85	△ 10	△ 6	△ 7	+ 4
その他 / 消去差	15	20	+ 5	-	+ 5	± 0
合計	440	400	△ 40	△ 35	△ 9	+ 4

新型コロナウイルスの検査需要増加も保険点数引き下げ、
DPEの立ち上げ遅れによる機会損失、機能樹脂の需要減により減益

単位：億円			2021年度 11月予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	900	900	± 0	+ 1	△ 1	
営	業	利 益	185	185	± 0	+ 1	△ 9	+ 8

製品別販売動向・コスト

- 球状アルミナ
 - xEV関連、5G通信関連の需要が伸長し、11月 予想並みとなる見通し
- 溶融シリカ
高機能フィルム
 - 5G通信やデータセンター需要の拡大を背景に、好調な出荷が続く半導体関連製品は11月 予想並み
- アセチレンブラック
 - xEV関連は、半導体不足による自動車減産の影響により出荷が下振れる見通し
 - 洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要は堅調に推移し、11月 予想並みとなる見通し
- セラミックス基板
 - xEV関連は、半導体不足による自動車減産の影響により出荷が下振れる見通し
- その他
 - 販売数量減による製造コスト減、他

半導体不足による自動車減産の影響も、コストの減少により11月 予想並み

単位：億円			2021年度 11月予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	500	450	△ 50	△ 37	△ 13	
営	業	利 益	155	145	△ 10	△ 37	+ 22	+ 5

製品別販売動向・コスト

新型コロナウイルス 抗原迅速診断キット

- 新型コロナ第5波が収束した10-12月の検査需要が急減
(自主回収の交換出荷を11月以降実施)
- 1月以降、第6波による検査需要が急速に拡大
- 新型コロナの抗原検査の保険点数が昨年12月31日より引き下げられた。
通常4月1日に改定されるが、政府方針により臨時的な前倒し改定であったため、
11月予想時点には織り込めず。
(保険点数：抗原検査キット600点→300点、コンボキット600点→420点)

その他検査試薬 (炎症マーカー、他)

- 中国・欧米向けの需要が堅調に推移し、出荷が上振れる見通し

インフルエンザワクチン

- 12月以降の接種が想定を下回る見通し

新型コロナウイルス検査キットの出荷数量上振れも、保険点数改定により11月予想を下回る見通し

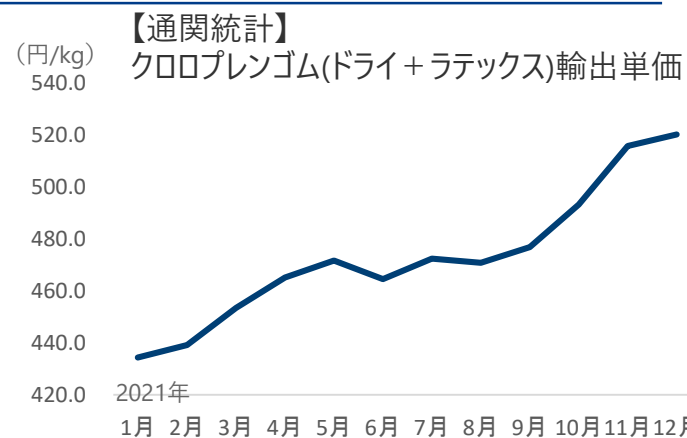
単位：億円			2021年度 11月予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	1,100	1,100	± 0	+ 7	△ 7	
営	業	利 益	△10	△35	△ 25	+ 7	△ 19	△ 13

製品別販売動向・コスト

- クロロプレンゴム
- DPEではハリケーン「アイダ」により8月末から停止していた設備の立ち上げが11月予想からさらに遅れ、減産による機会損失が発生（影響額：約△15億円）
 - 原材料価格上昇（ブタジエン・塩素・コークス）に伴い、8月の値上げに続き、2月に追加値上げ販売価格が上振れる見通し（右図参照）

- 特殊混和材
- 出荷数量が下振れる見通し

- セメント
- 販売価格は、値上げ交渉を推進するも、11月予想の進捗を下回る



米国DPEの立ち上げ遅れにより機会損失が発生し減益

単位：億円			2021年度 11月予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
売	上	高	1,300	1,250	△ 50	△ 6	△ 44	
営	業	利 益	95	85	△ 10	△ 6	△ 7	+ 4

製品別販売動向・コスト

- MS樹脂
- TVやモニターなどの導光板用途が中国向けなどの需要が下振れ、11月予想を下回る見通し
 - 照明用途や化粧品容器などその他の用途へ注力
- AS・ABS・透明樹脂など
- AS・ABSでは半導体不足による自動車減産の影響により販売数量が下振れる見通し。
 - 透明樹脂は、中国などを中心に市況が悪化
- 食包シート・容器
- 値上げが遅れていることからスプレッドが悪化
- Toyokalon
- 在庫調整局面により販売数量が下回る見通し

中国市況悪化や半導体不足による自動車減産の影響により減益

		2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 今回予想
当期純利益	(億円)	230	250	227	228	260
1株当たり配当*	(円/株)	105.0	120.0	125.0	125.0	145.0
						中間70.0 期末75.0
配当額	(億円)	92	105	108	108	125
配当性向		40%	42%	48%	47%	48%
自己株取得	(億円)	23	21	-	-	-
総還元額	(億円)	115	126	108	108	125
総還元性向		50%	50%	48%	47%	48%
減価償却額		246	229	225	229	235
設備投資・投融資額	(億円)	270	328	369	423	390
ROE		10.0%	10.3%	9.1%	8.8%	9.4%

*当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、1株当たり配当は各期と比較しやすくするために、株式併合後の数値に換算した金額を表示。

1株当たり配当は145円を維持

営業利益

単位：億円

	2020年度 実績	2021年度 今回予想	2022年度 経営計画	前年比
電子・先端プロダクツ	142	185	220	+35
ライフソリューション	148	145	110	△35
エラストマー・インフラソリューション	△36	△35	70	+105
ポリマーソリューション	84	85	110	+25
その他 / 消去差	8	20	△10	△30
合計	347	400	500	+100

主な施策

球状アルミナ : xEV・5G通信関連需要加速、
シンガポール増設効果(2022年4月から本格稼働)
アセチレンブラック: xEV・洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要加速、
安価用途から高付加価値用途への更なるシフト

インフルエンザワクチン: 2022年シーズンから原液製造新棟稼働
検査試薬 : 製品ラインナップ拡充、
検査需要回復・拡大(炎症マーカーなど)
新型コロナ検査キット: 売価下落リスク織り込み
がん治療用ウイルスG47Δ製剤「デリタクト®注」: 2021年10月出荷開始
(2023年度以降の本格寄与期待)

クロロプレングム: 価格改定、ハリケーンアイダ影響(一過性)の解消
セメント : 価格改定
特殊混和材 : リニア新幹線向け増、
トンネル工事用粉塵対策品「クリアショット」拡販

MS樹脂: 導光板用途はTVやモニター向けに加え、
照明向けなどの需要が伸長、
化粧品容器などその他の用途の需要が拡大
シンガポールでの生産能力倍増(2021年7月稼働開始)
IP : 高付加価値グレード拡販(自動車内外装材用途など)

(グループ全体の労働条件改善による労務費アップ含む)

※「デリタクト」は第一三共株式会社の登録商標です。

営業利益500億円に向けて、Denka Value-Upのスペシャリティー戦略を継続

売上高 単位：億円	2020年度 実績	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	その他※
電子・先端プロダクツ	777	900	+ 123	+ 45	+ 114	△ 36
ライフソリューション	429	450	+ 21	△ 40	+ 62	△ 1
エラストマー・インフラソリューション	919	1,100	+ 181	+ 69	+ 133	△ 20
ポリマーソリューション	1,099	1,250	+ 151	+ 299	△ 141	△ 6
その他 / 消去差	320	150	△ 170	-	+ 81	△ 251
合計	3,544	3,850	+ 306	+ 373	+ 248	△ 315

※収益認識に関する会計基準変更

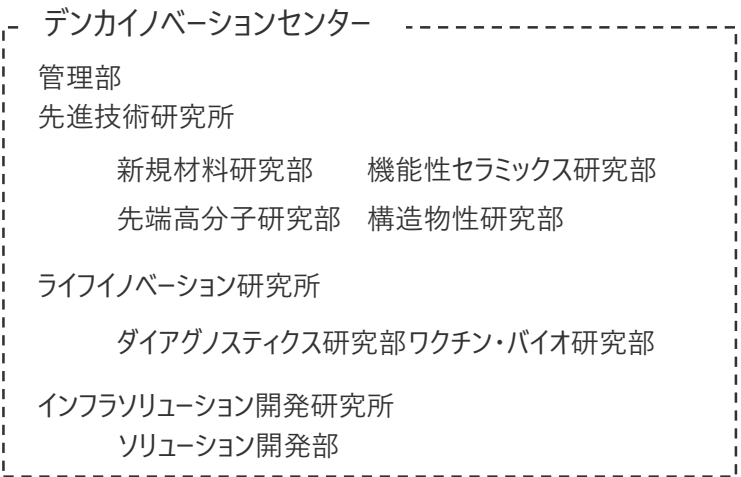
営業利益 単位：億円	2020年度 実績	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	142	185	+ 43	+ 45	+ 62	△ 65
ライフソリューション	148	145	△ 3	△ 40	+ 57	△ 20
エラストマー・インフラソリューション	△36	△35	+ 1	+ 69	+ 44	△ 113
ポリマーソリューション	84	85	+ 1	+ 299	△ 3	△ 295
その他 / 消去差	8	20	+ 12	-	+ 12	△ 0
合計	347	400	+ 53	+ 373	+ 173	△ 494

売上高 単位：億円	2019年度				2020年度				2021年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
電子・先端プロダクツ	173	200	183	200	171	196	200	211	210	228	223	238
ライフソリューション	51	99	137	68	53	109	205	63	60	193	109	88
エラストマー・インフラソリューション	269	276	249	261	198	220	248	252	246	268	261	325
ポリマーソリューション	324	335	305	315	253	251	283	313	318	315	295	323
その他 / 消去差	91	101	92	77	87	65	82	85	35	40	40	36
合計	909	1,011	967	921	762	841	1,017	924	867	1,044	928	1,010

営業利益 単位：億円	2019年度				2020年度				2021年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q予想
電子・先端プロダクツ	26	33	28	40	28	38	36	40	44	48	46	47
ライフソリューション	1	24	38	6	0	24	114	10	3	104	12	26
エラストマー・インフラソリューション	21	10	0	8	3	△4	△19	△15	1	△0	△12	△23
ポリマーソリューション	18	20	15	19	13	16	25	30	26	18	19	22
その他 / 消去差	2	△0	5	3	0	3	3	2	4	5	4	7
合計	67	86	87	76	44	77	160	67	77	175	70	78

- ✓ 新事業開発部門の新設
- ✓ コーポレート研究部門の再編
(現行)

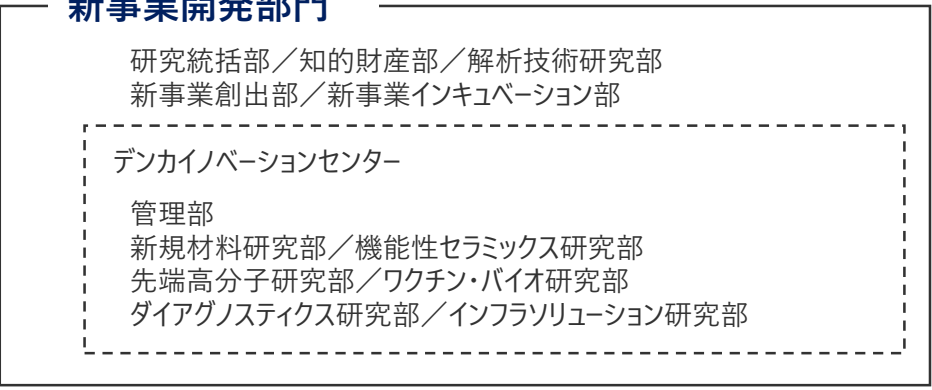
研究推進部／知的財産部／AMS開発推進部／新事業開発部



- ポリマー・加工技術研究所
- 電子・先端プロダクツ部門
- ライフイノベーション部門
- エラストマー・インフラソリューション部門
- ポリマーソリューション部門

- ✓ デンカイノベーションセンターの再編
- ✓ 既存事業部門の研究開発体制の再編
(改定)

新事業開発部門



電子・先端プロダクツ部門

セラミックス研究部 (大牟田) ／電子材料研究部 (渋川)
高分子加工研究部 (伊勢崎) ／電池・導電材料開発部、高分子研究部 (千葉)

ライフイノベーション部門

ワクチン・試薬開発部 (五泉)
ダイアグノスティクス研究部 (デンカイノベーションセンター)

エラストマー・インフラソリューション部門

セメント・特混研究部、有機材料研究部 (青海)
インフラソリューション研究部 (デンカイノベーションセンター)
セラミックス研究部 (大牟田) ／高分子研究部 (千葉) ／電子材料研究部 (渋川)

ポリマーソリューション部門

高分子研究部 (千葉) ／有機材料研究部 (青海)
高分子加工研究部 (伊勢崎) ／樹脂加工研究部 (大船)

新事業創出の強化と既存事業の更なる発展、研究の責任・運営体制の明確化

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Possibility of chemistry

Denka

本資料に関するお問い合わせ先

デ ン カ 株 式 会 社
コーポレートコミュニケーション部

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>